市町村別就業・通学先状況

１　就業・通学状況まとめ（令和２年国勢調査）

・就業・通学先は生活圏と密接に関係するほか、医療従事者確保の圏域とも関連すると考えられる。

・各構想区域内について入院患者の受療動向と同様に、その多くが居住市町村内、構想区域内の移動となっているが、一定数が各地域から京都市や奈良市、大阪市などの各都市圏に向かっている状況が認められる。

丹後	・居住市町内で約６～８割完結し、丹後地域内まで含めると各市町で約８～９割完結している。
中丹	・居住市内で約７～８割完結し、中丹地域内まで含めると各市で約９割完結している。
南丹	・居住市町村内で約５～７割完結し、南丹地域内まで含めると約６～８割の完結している。 ・亀岡市では約２割、南丹市では約１割が京都市に就業・通学している。
京都 ・乙訓	＜京都市＞ ・京都市内で約８割完結し、大阪府や山城地域をはじめ周辺地域への就業・通学もみられる。 ＜乙訓＞ ・居住市町内で約３～４割完結し、約２～３割が京都市に就業・通学している。
山城北	・居住市町内で約４～５割完結し、約１～３割が京都市に就業・通学している。 ・八幡市、京田辺市では、枚方市や大阪市にも就業・通学がみられる。
山城南	・居住市町村内で約４～６割完結し、市町村により奈良市内、京都市内等への就業・通学がみられる。 ・木津川市や精華町では約１割が京都市に就業・通学している。 ・管内の各市町村では約１割が奈良市に就業・通学している。 ・南山城村では約２割が伊賀市に就業・通学している。